



はやね はやおき 朝ごはん テレビを止めて外遊び

三角中A

くわいさつ えがお おもいやり

令和元年度
別海町立野付小学校
学校だより No.10
令和元年12月24日

発行責任者
校長 奥村繁義

心をそろえる

12月に入り、穏やかな日が続いておりましたが、厳しい寒さや降雪もあり、北海道本来の冬の訪れを感じる季節となりました。本校では、インフルエンザの流行により4年生の学級閉鎖もありましたが、多くの子が元気を取り戻し、無事に2学期を終了することができました。

ここで、皆様に紹介したい作文を下記に載せますのでご覧下さい。

『 はきものをそろえると心もそろう 心がそろうとはきものもそろう
ぬぐときにそろえておくと はくときに心がみだれない
だれかがみだしておいたら だまってそろえておいてあげよう
そうすればきっと 世界中の人の心もそろうでしょう 』



僕は、これを読んだとき、ふと亡くなった父さんのことを思い出しました。それは、僕が小学3年生のお正月に、風邪をひいてしまい、救急病院に連れてってもらった時のことです。

その病院はとても小さく、玄関も狭いところでした。僕は靴を脱ぎ、待合室に向かおうとしました。すると、父さんは、僕の靴と狭い玄関に散らばっていた何足もの靴を一足ずつ下駄箱にそろえているではありませんか。僕は、どうして見ず知らずの人の靴を平気で触れるのかと不思議で、むしろ恥ずかしくなりました。

しかし、待っている間に次々と入ってきた人は、皆、自分の靴をきちんとそろえていました。たぶんそれは、几帳面だからということではなく、そろえてある靴を見て、自然とそろえたように見えました。

自分が靴をそろえたことを自慢する訳でもなく、注意したりせずに普通にそろえられる人が増えるといいと思います。これがつながっていけば、きっと世の中は少しずつ、でも、確実に、すてきな世界に変わっていくと思います。そんなことを気づかせてくれた父さんは、とてもすてきな人だと思います。僕はこれから、父さんの残してくれた教えを実行するだけでなく、次へとつなげていく人でありたいと思います。

この中に出てくる『はきものをそろえると心もそろう』という道元禅師の言葉を聞いたことがある人も多いと思います。本校の玄関にも模造紙に書かれたこの言葉が掲示されていて、子どもたちが毎日目にしています。「心がそろう」ということは、一人の人間として、また、ともに社会を生きる者として大切なことです。そして、お互いに心地よいものです。自然に挨拶をするように、自然に靴をそろえられる人になりたいものです。まず自分自身が実行し、家族へ、友だちへとつなげていきたいものです。

さて、学校では大きな事故もなく、地域の皆様や家庭の皆様に支えられて、安心・安全な生活を送ることができました。「自ら学ぶ子 共に高め合う子 互いに思いやる子」の育成に重点をおいて、継続して指導してまいりました。子どもたちの努力や頑張りが、学校行事を始め、いろいろな面に發揮されていたと考えております。さらに、一人一人の子どもがそれぞれの夢や目標に向かって努力できるように指導支援をしてまいります。

明日から冬休みが始まりますが、冬休みは大晦日、そして元旦といった1年の節目を迎えます。各ご家庭によつて過ごし方は少しずつ違うのだろうが、どのご家庭でもこの節目の機会を生かして、食卓を囲みながら家族がそれぞれに改まってこの1年を振り返り、新しい年への抱負を語り合うことだと思います。ぜひ、時間をとって、日常生活のことや学習の進め方などの対話を深めてほしいと思います。また、便利に快適になったとはいって、冬の生活特有の厳しさがあります。この冬の生活を乗り切るために、家族の一員として果たさなければならない役割をしっかりと分担させてください。寒さや降雪のために大変になるさまざまな家の仕事を手伝わせることで、北で暮らす者としてのたくましさを身につけて欲しいと願っています。

皆様方におかれましては、新しい年を迎える準備でお忙しいことと存じますが、来年も変わらぬご支援とご協力ををお願い申し上げます。

校長 奥村繁義